埼玉アーツシアター通信

SAITAMA
ARTS THEATER
PRESS
VOL.81

2019.6-7

めにみえない みみにしたい

世界最前線の演劇3

ディミトリス・パパイオアヌー

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン

SAITAMA
ARTS
THEATER

Tribute to 蜷川幸雄
&
古川日出男

行動する小説家に演出家が与えた影響

ふるかわ・ひでお
作家。1998年『13』でデビューし、昨年、作家生活20周年を迎えた。『LOVE』で三島由紀夫賞、『女たち三百人の裏切りの書』で野間文芸新人賞と読売文学賞をダブル受賞するなど受賞多数。代表作に『サウンドトラック』『ベルカ、吠えないのか？』『聖家族』など。近年は世界各地で文学イベントに参加し、講演や朗読パフォーマンスを行っている。
Photo◎朝岡英輔

取材・文◉
田中伸子（演劇ライター）

ポストモダンの旗手として精力的に活動する小説家・古川日出男さんの肩書きに「劇作家」を加えたのが蜷川さんだったというのをご存知だろうか。若かりし頃、演劇に没頭していた古川さんにとって蜷川さんは雲の上の人であった。2011年、大きな影響を及ぼした劇作家・清水邦夫の舞台『血の婚礼』を観に古川さんが劇場を訪れた際、目の前にその殿上人が現れ、初対面の自分に戯曲の執筆を依頼してきたので大いに驚き、同時に青ざめたと話してくれた。完成した戯曲『冬眠する熊に添い寝してごらん』（2014年）は壮大なファンタジーとなり、マエストロ蜷川をも大いに悩ませ、奮い立たせることとなる。

「演劇を一度やめて小説家になった人間が蜷川さんのために戯曲を提供する。その決死の覚悟がいわば演劇への挑戦状のような、ト書きが溢れる戯曲を生み出し、それを演出家が受けて立ってくださったのだと思います」と分析する。「大仏を出したり、回転寿司のコンベアを客席に作ったり、まさかあれほど忠実に舞台化するとは思っていなかったんですけどね」と笑う作家は初日に舞台を観て鳥肌が立つほどの経験をする。東京・大阪と6回劇場に通い、自らが紡いだ物語が演劇という想像の産物として昇華していく幸せを毎回、噛み締めていたと言う。

「蜷川さんが『この舞台が作れたので、俺はあと10年はやれる』と話していたと聞いて、本気で挑んだ甲斐があったと嬉しく思った」と振り返るかたわらで、この出会いが彼の側にも変化をもたらしたのだと、行動する小説家は語る。

「小説という小さなくくりで考えるのをやめ、自分がやっているのは小説を含めた文学なんだと捉えるようになりました。戯曲も書きたければ書けばいい。肩書きに劇作家とつくのも、大きく文学をやっている範囲だからいいと思うようになりました」

『冬眠する熊に添い寝してごらん』、さらに昨年発表した『ローマ帝国の三島由紀夫』が岸田國士戯曲賞の候補作となった古川さんにはある思いがある。

「色々なことがタコツボ化していると思うので、そういうボーダーに消しゴムをかけたいと思っています。僕が率先して薄く、薄くしておく。そうしたら色々な人がもっと自由に、新しい体験をすると思います。目先のところだけしか見ない時代、5年先を考えて消しゴムを準備しておくということです」

蜷川さん亡き今、新作『ローマ帝国の三島由紀夫』の演出に手をあげる者はまだ現れていない。

「そこ（演劇界）には外の人に対して消極的な気持ちもあるのだろうと思います。そう思うと、初めて会った僕にあっさりと『ホンを書いてよ』と言った人、蜷川幸雄の大きさというのはすごいと思います」

『冬眠する熊に添い寝してごらん』（2014年）　撮影◎谷古宇正彦　写真提供◎Bunkamura

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！Vol.8
萩原麻未 ピアノ・リサイタル

2014年 ピアノ・エトワール・シリーズ Vol.25 萩原麻未 ピアノ・リサイタルより　Photo◎加藤英弘

CONTENTS

4 PLAY〉『めにみえない みみにしたい』
6 PLAY〉さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3『朝のライラック』［ヨルダン／パレスチナ］
8 PLAY〉『蜷の綿 -Nina's Cotton-』
9 PLAY〉平成家族物語 舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾 東松山戯曲賞優秀作『枇杷の家』朗読劇 観劇レポート
10 DANCE〉ディミトリス・パパイオアヌー『THE GREAT TAMER』
12 DANCE〉さいたまダンス・ラボラトリvol.2（2019）
14 MUSIC〉テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ『うつくしいまち』
16 MUSIC〉アンサンブル・ウィーン＝ベルリン
18 MUSIC〉大塚直哉レクチャー・コンサート オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの"平均律" Vol.2「フーガ」の苦しみと喜び
19 REVIEW
20 イベントカレンダー／チケットインフォメーション／彩の国シネマスタジオ
23 INFORMATION
24 COLUMN〉林家彦いちの〝一歩外へ。

編集◎川添史子、榊原律子　表紙画◎波多野光　デザイン◎GOAT
©公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団 Published on 1. June 2019 All Rights Reserved by Saitama Arts Foundation
※掲載情報は、2019年5月15日現在のものです。公演は追加および一部変更される場合がありますので、ご了承ください。

新しい語り継がれ方をする新たな物語
『めにみえない みみにしたい』

藤田貴大 × 原田郁子

藤田貴大が手がけた子どもから大人まで楽しめる演劇『めにみえない みみにしたい』が、この夏、再演を迎える。
音楽を手がけたのはクラムボンの原田郁子。二人に、作品に込めた思いを聞く。

取材・文◉熊井 玲（演劇ライター） Photo◉井上佐由紀

藤田　2013年、『cocoon』（沖縄戦に動員された少女たちから想を得て描いた、今日マチ子の漫画の舞台化）を作った時、郁子さんとは“戦争をいかに描くか”ということより、“あの季節に子どもたちがあんな思いをした”ことについて、ずっと話していた気がして。だから『cocoon』が終わった後も、僕と郁子さんの中では子どもという漠然としたモチーフがずっとあったと思います。で、ある時、“郁子さんと一緒に、子どもが観る作品を作る”という夢を見て、すぐに郁子さんに電話して（笑）。

原田　『cocoon』という作品は自分にとって大きくて、みんなと一緒に走り抜けて私も一度死んだんじゃないか、というくらい。でも、どこか終わらない感覚もずっとあって。藤田くんが福島の中高生たちと作ったミュージカル『タイムライン』を観て、クラムボンの新曲のタイトルに「タイムライン」と付けさせてもらったり、やりとりは続いていました。なので電話をもらってすごく嬉しかったです。

藤田　“子どもを扱った作品”ということは決まっていたけど、内容は郁子さんと同時進行で作っていった感じです。郁子さんの作業を見ながら僕が脚本を書き、ちょっとできたシーンを郁子さんが見て曲ができ……。

原田　目に見えないけど、頭の上の方で作っていくような（笑）。『cocoon』の時は関わるキャストもスタッフもたくさんいて大きな現場だったんですけど、『めにみえない〜』はもっとシンプルで、削ぎ落とされていた。例えば、藤田くん自身が劇中の音楽を流したり、役者さんたちが生音で楽器を鳴らしたり歌ったり、子どもたちが楽しめるような工夫や遊びも随所にあって。

藤田　『cocoon』って当時のマームでは一番大きな作品でいろいろ注ぎ込んでいたので、『めにみえない〜』はもっと要素を間引いて、原石だけみたいな作品にしたいなと思っていました。そのベースには、郁子さんのソロアルバム「ケモノと魔法」があって。郁子さんの曲はいつも、1曲聴くと次の曲の前にちょっと考える“間”が必要なんです。特に「ケモノと魔法」は、ラスト2曲の《ユニコーン》と《もうすぐ夜があける》の間に何があるのかを、僕はずっと探してて、実際、その2曲を劇中で使いました。

原田　あの2曲はすごく音が少ないんですよね、そういうところを藤田くんは感じ取ってくれたのかな？　《もうすぐ夜があける》は舞台用に歌詞を書きかえて録音して、《ユニコーン》では、劇場の隣にあるさいたま市立与野西中学校の吹奏楽部の皆さんに参加してもらいました。スケジュールがタイトだったので、「どうなるかな」と思ったんですけど、一音めが「ファー」って鳴った瞬間に涙腺が（笑）。きっと誰もが経験している、放課後の音楽室から聴こえてくるブラバンの音、まさにあの音がして。わぁ、なんてピュアなんだろうって。その後、劇場に戻って、実際に公演する劇場のスピーカーでMIX作業を行ったのですが、そういう作業の進め方もシンプルでありがたかったです。

目に見えない、でも耳にしたい、触ってみたい

藤田　今、携帯やiPadを開けばすぐ自分が見たいアニメを見ることができるし、子どもって僕らの倍速でいろんなことに影響を受けてると思うんです。その子たちの関心を集め続けるのってけっこうな技術が必要で。でも郁子さんとのクリエーションでは、タイトル通り、“目に見えない、でも耳にしたい、触ってみたい”というような重要なものの原液が、量にしたら目薬1滴くらいかもしれないんだけど（笑）、詰まってる気がしていて。そういうものに触れた子どもが、大人になった時にとんでもないものを作ってくれるんじゃないかって、そのことに期待してます。

原田　先日、あるインタビューを読んで久しぶりに感銘を受けたんですけど。凶悪犯罪の加害者たちを取材してきた作家・吉岡忍さんの「なぜ、彼は人を殺したのか」という記事です。その中で、加害者たちの共通点として挙げていたのが、想像力の欠如だと。自分が興味のあること以外は無関心で、例えば何十年か前に日本で戦争があったことを知らなかったり、これをしたら相手がどう感じるか、痛みや気持ちがわからなかったり。「どうしたらいいと思いますか？」という記者の質問に「物語が必要だ」と答えた。残酷さや悲惨さを物語の中で経験して、現実世界ではなんとか踏みとどまれるような、そういう新しい物語が必要だと。藤田くんたちが取り組んでいる舞台というものは、ものすごく手間をかけて準備して、その日が終われば消えてしまう生のもの。だけど、まさしく“物語の体験”なんじゃないかなって。

藤田　僕も新しい物語についてはずっと考えています。例えばアニメでユニコーンの画を見ることもできるかもしれないけど、劇場でユニコーンを“見る”ことができるのってすごく贅沢なことだと思うんです。そんな新しい語り継がれ方をするような、新たな物語を立ち上げることが今、必要な気がしますね。

STORY

おねしょに悩むおんなのこは、飼い猫のにゃあにゃあちゃんから聞いた古い言い伝えを叶えるため、夜の森へ出掛けて行きます。おかあさんも子どものころに出かけた森には、たくさんの動物たちや不思議な生き物、妖精たちが住んでいました。森で出会った狩人に案内されて森の奥へ進むおんなのこ。やがて辿りついた古いおうち。となりの森と戦争が始まろうとする中、おんなのこが古いおうちで見たのは……。

チケット販売中

『めにみえない みみにしたい』
7.13（土）〜15（月・祝）
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

［作・演出］藤田貴大
［出演］伊野香織、川崎ゆり子、成田亜佑美、長谷川洋子

チケット（税込）全席自由
大人（19歳以上）2,000円　子ども（2歳以上）1,000円

※推奨年齢4歳以上。
※開場は開演の20分前。 ※上演時間は約55分（休憩なし）。
※2歳未満の膝上鑑賞は無料（保護者1名につき、お子さま1名まで）
※7月7日（日）関連企画「地図のワークショップ」あり。
　要申込。6月7日（金）必着。詳しくは財団ホームページをご覧ください。

	7.13 土	14 日	15 月・祝
11:30	●	●	●
15:00	●	●	●

原田郁子
Ikuko Harada

福岡生まれ。1995年にスリーピースバンド「クラムボン」を結成。歌と鍵盤を担当。バンド活動と並行して、さまざまなミュージシャンと共演、共作、ソロ活動も精力的に行っており、『ピアノ』（2004年）、『気配と余韻』『ケモノと魔法』『銀河』（ともに2008年）のソロアルバムを発表。2010年、吉祥寺のイベントスペース&カフェ『キチム』の立ち上げに携わる。近年はクラムボンが、自主レーベル“トロピカル”からミニアルバム『モメント e.p.』を3作発表しており、流通を介さない独自の販売方法で新たな動きを見せている。マームとジプシー、藤田貴大とは、2013年初演、2015年再演の舞台『cocoon』、昨年初演の『めにみえない みみにしたい』の音楽担当で共作している。

藤田貴大
Takahiro Fujita

1985年生まれ。マームとジプシー主宰、劇作家、演出家。2007年にマームとジプシーを旗揚げ。象徴するシーンのリフレインを別の角度から見せる映画的手法が特徴。2011年に三連作『かえりの合図、まってた食卓、そこ、きっと、しおふる世界。』で第56回岸田國士戯曲賞を26歳で受賞。『cocoon』（今日マチ子原作）の再演（2015）で第23回読売演劇大賞優秀演出家賞を受賞。2018年11月『書を捨てよ町へ出よう』（寺山修司作）で「フェスティバル・ドートンヌ・ア・パリ」に招聘され、パリにて上演。今もっとも注目を集める若手演劇人のひとり。

さいたまネクスト・シアター
世界最前線の演劇３
『朝のライラック』［ヨルダン／パレスチナ］

眞鍋卓嗣
Takashi Manabe
Interview

価値観をガラリと変えた作品

「世界最前線の演劇」最新作は、
イスラーム国支配下のとある町で
若い夫婦を襲った実話から着想された『朝のライラック』。
今作の演出を手掛ける眞鍋卓嗣（劇団俳優座）に、
作品について聞いた。

取材・文◉川添史子

Photo◎片山貴博

眞鍋卓嗣
Takashi Manabe

1975年生まれ。東京都出身。劇団俳優座文藝演出部所属。劇団内の主な演出作品に、『先生のオリザニン』（加藤剛主演）、『海の凹凸』（作・詩森ろば）、『首のないカマキリ』（作・横山拓也）。その他、オペラシアターこんにゃく座『遠野物語』（作・長田育恵）、名取事務所『ああ、それなのに、それなのに』（作・別役実）など劇団外でも活躍を見せる。名取事務所『象』（作・別役実）においては2018年にロシア、ルーマニア巡演を成功させた。

――物語の舞台は、武装組織ダーイシュ※1の支配下、中東にある架空の町。ドゥハーとライラクという愛し合うひと組の若い夫婦を軸に、彼らを宗教的な背景を利用して悲劇に追いやる軍事司令官や長老、ダーイシュの恐怖を描いた戯曲です。眞鍋さんは2017年に国際演劇協会日本センターで開催されたリーディングでも演出を手がけましたね。

一番最初に戯曲を読んだときは、やはり、夫婦が巻き込まれる悲劇が強い印象として残りました。そこからスタートして、翻訳の渡辺真帆さんにお話を伺いながらイスラム教の勉強をし、関連映像を俳優たちと一緒に見たりと、一読ではとらえきれなかったことを徐々に知っていって……。この物語には、宗教を利用して結婚ジハード※2という過激な行為が許される構造が描かれています。リーディングではこの複雑な事情を細かく表現できないところもありましたし、僕自身、当時から感じ方が変化したところもありますので、今回は改めて読み直したいと思っています。

――戯曲は、夫婦が閉じ込められている部屋の場面と過去の回想を往還する構造になっています。作家がこの過去の場面を「記憶の窓」と表現しているのが面白いと思いました。

二人が出ていけない密室には緊張感が漂いますが、そんな危機的状況に置かれた人間の頭の中で記憶の窓が開いていくという趣向ですよね。精神の平衡を保つために記憶をたどるということだと作家のまえがきにもありますが、僕はここにリアリティーを感じるんです。そして、過去や現実、生や死といったさまざまなボーダーラインが溶解していくような構造は、演劇ならではの面白さが表現できる箇所でもあると感じていて、ここはしっかり面白く見せたいと考えています。

宗教と芸術、作家の横顔

――眞鍋さんは、講演のために来日した劇作家・演出家ガンナーム・ガンナームさんともお会いになったとか。

「宗教は嫌いだ」と言いながらビールを飲む姿が印象的でした（笑）。ドゥハーとライラクは美術教師という設定で、この戯曲の中では宗教と対立させるように芸術を配置しています。「なぜ人は生きるか」という問いに演劇や音楽を絡めて語っている戯曲でもあるのですが、作家本人を目の前にすると色々と腑に落ちる部分はありましたね。お会いした時ガンナームさんも僕もリュックを背負っていたんですけれど、「演劇人がリュックを背負うのは世界共通だ」なんて冗談もおっしゃって（笑）、気さくな方でした。

――キャストについても伺えますか。今回オーディションでキャスティングした「さいたまネクスト・シアター」のメンバーに加え、リーディングでも美しく芯が強いライラクを演じた占部房子さんが参加。ネクストの俳優たちの印象はいかがでしたか？

シェイクスピアを始めとする古典作品で鍛えた彼らはエネルギッシュ。身体的な強靭さを感じました。ガンナームさんの台詞は詩的でリアリズムでは追いつかないところがあり、そういった飛躍ある台詞もネクストの皆さんなら力強く表現してくれるんじゃないかと期待しています。リーディングでドゥハーを演じた隼太さんには、今回、ダーイシュ戦闘員で元はドゥハーの教え子だったフムードという青年に挑戦してもらいたい。そしてドゥハーは松田慎也さんに演じてもらいます。これは自分の中では大きな変化。なかなかいいバランスのキャスティングになったと思っています。

ITI『朝のライラック』リーディング公演より Photo◎石澤知絵子

Photo◎片山貴博

――稽古が始まるのが楽しみですね。

はい。２年前にこの戯曲に出会い、僕自身、価値観がガラリと変わった感覚があるんです。イスラム社会で生きる人たちの思考を追いかけ、大変なことが世界で起きていることを肌で感じた日々は、僕の中で大きな経験でした。空間も広がり立体的になることによって、いろんな発見が生まれそうですし、部屋の中だけではなく、外で起きている恐怖も臨場感を持って表現したいと思っています。

※1　ダーイシュ（Da'ish）とは「イスラーム国」を名乗る組織の他称。「イラク・シャームのイスラーム国（al-Dawla l-Islamiya fi l-Iraq wa sh-Sham）」のアラビア語の頭文字をとった、否定的な響きを持つ蔑称。同組織を支持しないアラブ人やアラビア語メディアは「イスラーム国」ではなく、「ダーイシュ」という呼称を用いることが多い。
※2　ジハード戦士の士気を高めるために「結婚」すること。ジハードの思想に共鳴し、自らシリアなどの戦地に赴いた女性たちがいた一方、ダーイシュは制圧した地域の女性を戦闘員と繰り返し「結婚」させ、戦闘員の性的欲求を充足させていた。

作：ガンナーム・ガンナーム
Ghannam Ghannam

演出家、劇作家、俳優。1955年ジェリコ生まれ。1984年から演劇活動を開始。ヨルダン芸術家連盟会員、ヨルダン演劇人協会会員。アラブ演劇協会※等の設立に参加。現在はアラブ演劇協会で出版・広報責任者を務めるほか、アラブ圏の多数の演劇祭で審査員を務める。代表作に故ガッサーン・カナファーニー原作の一人芝居『ハイファに戻って』。戯曲『朝のライラック（ダーイシュ時代の死について）』（2016）でのヨルダン文化省創造賞のほか、戯曲賞、演出賞を多数受賞。

※アラブ演劇協会（Arab Theatre Institute-ATI）2007年設立。本部はUAEシャルジャ市。アラブ諸国における演劇活動、学校での演劇教育、演劇人の交流促進、若手の育成、演劇に関わる文学者（作家を含む）の文学的・経済的権利に関する意識向上や、その権利を保障するための法律・協定制定のための活動、アラブと非アラブの演劇関係者の交流促進、アラブ演劇の紹介を行う。現理事長は当協会設立者でもあるシャルジャ首長のシェイフ・スルターン・ビン・ムハンマド・カースィミー殿下。アラブ演劇祭の主催団体。

チケット販売中

さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3
『朝のライラック』［ヨルダン／パレスチナ］

7.18（木）～28（日）
彩の国さいたま芸術劇場
NINAGAWA STUDIO（大稽古場）

［作］ガンナーム・ガンナーム　［翻訳］渡辺真帆
［演出］眞鍋卓嗣
［出演］竪山隼太　手打隆盛　堀 源起　松田慎也
茂手木桜子　中西 晶　鈴木真之介 ／ 占部房子（小野事務所）
チケット（税込）全席自由（整理番号付）
一般 3,000円　U-25* 2,000円　メンバーズ 2,700円

	7.18 木	19 金	20 土	21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日
14:00	●	●	●	●	休	●	●	●		●	●
19:00	●				演				★		

★7.26（金）は記録映像撮影のためカメラが入ります。

※全公演、終演後にアフタートークを開催します。
※日本語上演　※開場は開演の20分前です。
※開場時間よりチケットに記載されている整理番号順のご入場となります。開場時間を過ぎますと整理番号は無効になります。
※特設劇場での上演のため、椅子の形状が通常と異なります。
＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

速報

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』リーディング公演上演決定！

文◉川添史子　Photo◉宮川舞子

劇作家・藤田貴大（マームとジプシー）が蜷川幸雄の依頼を受けて執筆した新作『蜷の綿-Nina's Cotton-』。2016年、蜷川の入院によって公演は中止となり、幻の戯曲となっていたが、今回、リーディングの形で初演されることが決定した。演出は、長年蜷川の助手を務めた井上尊晶。出演は、晩年の蜷川が情熱を傾けて育て上げた「さいたまゴールド・シアター」と「さいたまネクスト・シアター」である。

戯曲の誕生秘話はドラマチックだ。蜷川は藤田が手がけた『cocoon』（2013年初演）を観劇。そのすぐあと、藤田に「僕に戯曲を書いてください」と依頼したという。ちょうど50歳年上の大先輩からの突然の依頼に驚き、心を動かされた藤田は執筆を決意。蜷川の半生を描く作品を構想した。

“蜷の綿”という不思議なタイトルについても、深い意味が隠れている。「蜷」は巻貝や渦状のものを意味する漢字で、その「腸（ワタ、ハラワタ）」を「綿（cotton）」と記すことによって、蜷川の繊細な内側を示唆しているとか。執筆当時、藤田は1年かけて本人に幼少期からの記憶をインタビューし、『蜷の綿-Nina's Cotton-』を書き上げたと聞く。孫のような世代に語った巨匠の言葉、人生が力強く立ち上がる作品に期待したい。

同公演は、彩の国さいたま芸術劇場の芸術監督を10年務めた蜷川に焦点を当てた開館25周年記念企画の中で開催される。ほかの関連企画については次号で発表。

『蜷の綿 -Nina's Cotton-』
10.13（日）～15（火）
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール
［作］藤田貴大
［演出］井上尊晶
［出演］さいたまゴールド・シアター
さいたまネクスト・シアター
※詳細は次号にて発表します。

平成家族物語 舞台芸術によるまちづくりプロジェクト第1弾

東松山戯曲賞優秀作『枇杷（びわ）の家』朗読劇 観劇レポート

文◉川添史子　Photo◉佐藤 智

11:00開演回

15:00開演回

東松山市民コーラス

昨年、埼玉県東松山市の東松山文化まちづくり公社が募集した「東松山戯曲賞」。記念すべき第一回は、グラフィックデザイナーで小説家の緑川有の『枇杷の家』が選ばれ、今年3月、瀬戸山美咲の演出により朗読劇として上演された。出演は公募で集まった市民たち（ダブルキャスト）。当日、会場となった松山市民活動センターには多くの観客が集まった。

舞台は、立派な枇杷の木が見守る一軒家のシェアハウス。ここで仲良く共同生活する高齢女性3人の関係は、ある事件をきっかけに変化していき……。ポジティブで前向きな未亡人（62歳）、物事を斜めに見る毒舌家（62歳）、恋愛に無縁な人生を送ってきたフリーライター（58歳）。アラ還3人が、とめどなくおしゃべりし続け、酔って騒いだり、喧嘩をしたり。今はやりの“終活”どころか、過去を振り返って昨日のことのように後悔もするし、恋愛でも失敗する。まだまだ人生をシメる気配のない3人の会話はリズミカルでコミカル、そしてリアル。客席からは、随所で織り込まれた人生の“あるある”に頷くような笑い声が響いた。そんな楽しさの中に、人間の孤独、老いといったシリアスなテーマが浮かび上がり、現代とスッと地続きに。たくましい女性たちにエールを送るような終幕は、大きな枇杷の木のような強さ、緑の庭を通り抜ける風のような爽やかさを感じた。随所で入るコーラスも楽しく、出演者たちの演技は生き生きと堂々たるもの。カーテンコールでは大きな拍手が送られた。

終演後には同会場で「平成の家族を語らう会」と題し、シンポジウムも開催した。

同戯曲は来年は演劇として、再来年は音楽劇として上演予定。

ディミトリス・パパイオアヌー
（演出・振付家）
Dimitris Papaioannou

1964年アテネ生まれ。美術家として活動を開始。NYでダンスを学び、1986年にエダフォス・ダンス・シアターを設立。以後フィジカル・シアター、実験的ダンス、パフォーマンス・アートを融合した独自の舞台創作を展開。2004年開催のアテネ五輪では開閉会式を演出。『PRIMAL MATTER』（2012年初演）、『STILL LIFE』（2014年初演）でヨーロッパ、南米、アジア、オーストラリアで大規模なツアーを行う。また、2018年5月には独ヴッパタール舞踊団の委嘱により、同舞踊団に『Since She』を振付・演出。ピナ・バウシュ亡き後、初めて新作を発表した振付家として大きな話題を呼んだ。

チケット販売中

ディミトリス・パパイオアヌー
『THE GREAT TAMER』

6.28（金）19:00、29（土）15:00、30（日）15:00
彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

［コンセプト・ビジュアル・演出］ディミトリス・パパイオアヌー

チケット（税込） 一般 前売S席6,500円 A席4,000円
U-25* 前売S席3,500円 A席2,000円／メンバーズ 前売S席6,000円 A席3,600円

＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。
※当日券は各席種とも＋500円
※A席（サイドバルコニー・2階席の一部）は舞台の一部が見えない場合がございます。予めご了承ください。
※28日（金）終演後、ディミトリス・パパイオアヌーによるポストパフォーマンストークあり。
※79号より公演日程が追加となりました。
※特設WEBサイト https://rohmtheatrekyoto.jp/lp/thegreattamer_saitama_kyoto/

ディミトリス・パパイオアヌー『THE GREAT TAMER』

世界の欠落や不在をあらわにする魔術——そしてエロスの召喚：パパイオアヌーの現代性

ついにディミトリス・パパイオアヌーが初来日！
国内外で活躍、日本を代表する国際的なキュレーター・長谷川祐子が、
パパイオアヌーの奥深い世界を解き明かす。

文◉長谷川祐子（キュレーター、美術批評家） Photo◉Julian Mommert

ディミトリス・パパイオアヌーは1964年ギリシャ生まれ、アテネの美術学校で学んだ。彼の師であるヤニス・ツァロウチス（Yannis Tsarouchis 1910-1989）はギリシャを代表する画家でありセノグラフィー（舞台美術）も手がけている。イコン的作風や、翼の生えた若者の姿など、絵画におけるギリシャ的伝統を現代絵画の中にもたらすことに貢献した。

ツァロウチスを記念するインスティチュートは、2017年のドクメンタ※においても紹介されている。この師の影響の下、パパイオアヌーは、政治的経済的にも激動の中にあるギリシャの状況の中で、古代ギリシャおよび西洋の伝統と現代の表現をつなぎ、現在の人間のエロスとタナトスのあり方を、詩的でありながら身体的に強いインパクトを与える方法で表現してきた。最初絵画やイラストレーションからはじめたパパイオアヌーはアテネの美術学校時代にダンスに出会ったのがきっかけで舞台芸術に転じ、その後1986年にはNYでエリック・ホーキンスのダンスにも出会っている。2004年、アテネオリンピックで弱冠40歳で開会式のディレクターを務めた彼は、歴史を参照したシンボリックな視覚アイコンの使い方、そして神話を現在の光景につなげるような大胆な視覚構成によって注目されてきた。

本作品タイトル『THE GREAT TAMER』（2017年初演）は、「時間は偉大なる調教師である」というギリシャのことわざからとられている。パパイオアヌーは、ギリシャの古典と彼のバックグラウンドである美術史を参照しながら，生と死：エロスとタナトスをテーマとしてとりあげた。その背後には、ホメロスの言葉やエル・グレコからレンブラントなどの絵画の巨匠の影響がみてとれる。

『THE GREAT TAMER』は95分、均整のとれた理想的な身体の10人のパフォーマー、斜めのスロープの形に構築された舞台の上で展開されるパフォーマンスである。人間のさまざまな様相が衣裳や小道具とともに、平面の舞台とは異なった角度で見えるため、人間を含んだインスタレーション作品あるいは絵画的イメージとして美的な構成が強調されるようになっている。魔術的に変化する空間と身体演出、生き物のように変化するステージなどによって、夢幻的な、ときには悪夢とも見える場面が展開される。

観客を甘美な体験へ誘う特異な手腕

セリフはなく、場面によってはヨハン・シュトラウスⅡの《美しく青きドナウ》がゆっくりとしたテンポで流れる。ダンスと無言演劇、変化するインスタレーションの交差点にあるようなこの形式は、セノグラフィーとコレオグラフィー、衣裳デザインなどが複雑で高度に洗練された視覚効果に助けられて成立する。ロバート・ウィルソンやヤン・ファーブルなどは美術展にもインスタレーションの形式で出品するなど、これらの美学とスタイルの先立といえる（実際パパイオアヌーは1989年にベルリンでウィルソンのアシスタントを務めている）。これに加えてパパイオアヌーの視覚的な展開の精度はミステリアスでマジカルな要素を含んでいる。それは舞台が水で満たされたり、天井から構造がおりてくるといった従来の意匠の域を超えて、より切実な世界を再構築する、あるいは現在の世界の欠落や闇を構造としてみせていくような深い動機に根ざしているようにみえる。

『THE GREAT TAMER』は友人からいじめを受けて自殺した少年が泥に埋もれていたところを発見された、という社会的な事件を出発点としている。彼の遺体（白骨）が地面から掘り起こされ、つぎの場面では別の位相で彼の身体（魂）が宇宙飛行士によって下からひっぱりあげられる。この効果を可能にしているのが、傾けられた床の構造であり、その上に重ねられた薄い板の層である。これが剥がされ、身体が現れたり、穴が現れたりする。パフォーマーたちのポーズはゴヤやレンブラント、ボッティチェリなどの名画のポーズから流用されている。そして身体はしばしば手足がバラバラになったり他の身体と結合したりするイリュージョンとして表される。これはプラトンのイデアとしてのアンドロギュノス（両性具有者）が分離させられ、互いの半身を求め合うエロスとしての行為とも見えるし、哲学者ジル・ドゥルーズ（Gilles Deleuzu 1925-1995）とフェリックス・ガタリ（Félix Guattari 1930-1992）の「器官なき身体」で示される分断され、脱構築を迫られる身体ともみえる。

舞台はすべてライブであってリアルである、そこで一つの身体に別の足が接合していくマジカルな視覚的演出を観客の目をそらすことなく施すのは容易ではない。それをゆったりとしたリズムの中で、シュールでありながら、受け入れざるをえない、甘美な体験として成立させてしまうパパイオアヌーの手腕はきわめて特異であるといえよう。

西洋的な文化を基礎とした作品ではあるが、現代における人間性の問題や欠落を、歴史横断的な手法で眩いばかりに荘厳に視覚化し、エロス——にむけて見るものを召喚しようとする。まさに今とともに生き、関わることで人々を「気づき」にむけて誘おうとする勇気あるアーティストの作品といえる。

※ドイツのカッセルで5年に1度開催される世界最大規模の現代美術展。2017年にはアテネでも開催された。

長谷川祐子
（キュレーター、美術批評家）
京都大学法学部卒業、東京藝術大学大学院美術研究科修士課程修了。金沢21世紀美術館を立ち上げ、現在東京都現代美術館参事、東京藝術大学大学院国際芸術創造研究科教授。上海ロックバンド美術館アドバイザリー委員。犬島「家プロジェクト」アーティスティックディレクター。2017年10月よりポンピドゥ・センター・メッスにて、「Japanorama: NEW VISION ON ART SINCE 1970」をキュレーション。第7回モスクワ現代美術国際ビエンナーレ「Clouds ⇄ Forests」キュレーター。2018年パリにて「ジャポニスム2018」の一環として「深みへ—日本の美意識を求めて」をキュレーション。主な著書に、『キュレーション 知と感性を揺さぶる力』（集英社）、『「なぜ？」から始める現代アート』（NHK出版新書）など。

『solos』リハーサル風景

人材育成を含めた創作の場
「さいたまダンス・ラボラトリ vol.2(2019)」

明日を担う若手ダンサーの育成、作品創作を目的とした「さいたまダンス・ラボラトリ」。
昨年好評を博し、今夏、第二弾が開催される。

文◉堤 広志(舞台評論家)　Photo◉matron2018

昨年2018年は、東京芸術劇場「東京演劇道場」や、まつもと市民芸術館「まつもと演劇工場NEXT」など、各地の公立劇場が人材育成も含めた事業をスタートし、創作の場としていよいよ本腰を入れ始めた年だったように思う。それはここ彩の国さいたま芸術劇場も同様で、地域の高齢者と取り組む「世界ゴールド祭」や、ダンスの人材育成と新作創作のワークショップ企画「さいたまダンス・ラボラトリ」をスタートさせている。

「さいたまダンス・ラボラトリ」は、彩の国さいたま芸術劇場のダンス部門プロデューサー・佐藤まいみによる“念願”の企画だったという。佐藤は1980年代より世界最先端のアーティストを日本に紹介してきた先駆的なプロデューサーで、業界内でその仕事ぶりを知らない人はいない。しかし、人材育成や創作を含めたワークショップ事業は、これまでやろうとしてもなかなか実施できなかったという。

佐藤は前職の神奈川芸術文化財団で、演劇・ダンス・音楽などジャンルを超えた人材養成機関「かながわ舞台芸術工房ASK(artists studio of kanagawa)」に携わっていたことがある。年2回ほどの短期集中ワークショップでは、ピナ・バウシュやウィリアム・フォーサイス、ローザスなどにちなんだ講師を招いた。人気は高く、120名以上の応募者から20名を選んだが、その中にはNibroll結成前の矢内原美那や、Dance Theatre LUDENSの岩淵多喜子、ダムタイプ参加前の平井優子らもいた。1997年から3年にわたって続けたものの、結局その事業も廃止となった。

当時は、自由に使える稽古場がなく、ノマドのように毎回稽古や発表の場を確保するのにも苦労したという。しかし、佐藤はASK以後も2001年と2002年にフィリップ・ドゥクフレのワークショップを開催している。まだKAAT神奈川芸術劇場ができる前で、その敷地に建っていた「かながわドームシアター」(旧横浜21世紀座)を利用したりもした。のちにドゥクフレ作品『イリス(Iris)』(2003年世界初演)に出演し、パリを拠点に活躍することになる伊藤郁女もそこに参加しており、佐藤の神奈川時代の取り組みが次世代のアーティストの活躍を生んだともいえるだろう。その伊藤が昨年、彩の国さいたま芸術劇場ほか国内をツアーし、大きな存在となって里帰りしたのは、まさに象徴的な出来事のように思える。

新たな才能、未来への投資

「さいたまダンス・ラボラトリ」は、このような前段があって生まれた企画だ。佐藤が彩の国さいたま芸術劇場へ転職したのも、実は劇場と稽古場のある環境に魅かれたからだったという。長年の願いがようやく叶ったvol.1では、ネザーランド・ダンス・シアター(NDT)の元ダンサーである小尻健太と湯浅永麻を講師に迎えた。小尻はイリ・キリアンのレパートリー(『27'52"』『Indigo Rose』)からシーンを抜粋して振付を指導し、湯浅は受講者が出演する創作の演出・構成を手がけた。

43名の応募があり、採用されたのは24名。その多くはバレエベースの技術を持ち、コンテンポラリーダンスの創作にも対応できる若い世代のダンサーたちだった。具体的にはオフバランス、コントラクション&リリース、フロアワーク、コンタクトインプロなどの経験があり、クリエイションについても振付家の意図を理解して迅速に表現できるダンサーたちのように見受けられた。一昔前であれば、そのようにコンテンポラリーダンスに対応できるバレエダンサーは、日本にはほとんどいない状況だった。それを思えば隔世の感がある。

成果発表会に立ち会った観客たち(舞踊評論家や関係者も含む)が一様に驚き、見入り、そして喜んだのは、その創作レベルの高さだった。特に湯浅振付の新作群舞『solos』では、ダンサー個々人の魅力を抽出しながら、アンサンブルとしてもダイナミックにシーンを展開した。サシャ・ヴァルツ『ケルパー(身体)』などの身体三部作を彷彿とさせるように、アクチュアルなコンタクトから、やがて空間全体が一つの宇宙を形成し、民族・宗教・歴史をも超越した集合的無意識が蠢きながら息衝いていくかのような作品にまとめられていた。10日間で仕上げたとは思えないほどのクオリティに、終演後は劇場公演として再演を望む声も数多く聞かれた。

劇場が単なる公演発表の場所としてだけではなく、ダンサーやアーティストの人材育成も含めた創作の場となることは、いわば未来への投資である。佐藤の神奈川時代の事例からもわかるように、かつての投資が今ようやく実を結んでいる。今また「さいたまダンス・ラボラトリ」からも新たな才能や作品が生まれることを、楽しみに見守っていきたい。(敬称略)

※「国際演劇年鑑2019」(ITI/UNESCO国際演劇協会日本センター発行)への寄稿「未来への投資が次代のアートを育む」より抜粋・加筆。

イリ・キリアン レパートリーを指導する小尻

湯浅永麻『solos』

さいたまダンス・ラボラトリ vol.2(2019)
小尻健太&湯浅永麻による夏期集中ワークショップ
〜NDTレパートリー&クリエーションワーク〜

【日程】2019年8月17日(土)〜8月31日(土) ※休講日8月19日(月)、26日(月)
【会場】彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO(大稽古場)
【プログラム】
①ウォームアップ&テクニッククラス
②湯浅永麻によるアトリエクラス[インプロビゼーション/クリエーションワーク]
③小尻健太によるアトリエクラス[リクリエーションワーク『Inscription』(2011年)より抜粋]
④レパートリークラス(NDTレパートリーより)
【8月30日(金)19:00〜・31日(土)15:00〜(予定)公開リハーサル】
【参加費】35,000円(税込)
【定員】20名
【対象】15歳以上35歳未満のダンス経験者・中級以上
【申込締切】6月30日(日)必着
※申込方法、詳細は財団ホームページをご覧ください。

テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ『うつくしいまち』

ダリオ・モレッティ Interview

Dario Moretti

夏休み、音と絵で 知らないまちを旅しよう！

イタリアで児童劇団を主宰する演出家でもあり、子どもたちの描く夢やファンタジーを題材に詩情豊かでコミカルな作品を創作する美術作家、ダリオ・モレッティ。
ユニークな創作活動で注目を集める音楽家の野村誠、やぶくみこによるユニット「テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ」が彩の国にやってくる！
『うつくしいまち』とはどのようなパフォーマンスなのか、ダリオ・モレッティに話をうかがった。

協力◎並河咲耶　構成◎榊原律子　イラスト◎ダリオ・モレッティ　Photo◎Art Tower Mito

Photo◎泉山朗土

埼玉で感じたことをもとに描く 絵と音楽による ライブ・パフォーマンス

――モレッティさんは、イタリアを拠点に児童向けの作品を作り続けていらっしゃいますが、本作『うつくしいまち』のプロジェクトはどのようにして始めたのでしょうか？

きっかけは、淡路島で、特産の瓦による音楽プロジェクトに参加したとき、日本の二人の音楽家――野村誠さん、やぶくみこさんと出会ったことでした。瓦や土を使った楽器の実験などを経て3人でたくさんの即興をしたのですが、彼らと一緒に創作することがとても楽しかったんですよ。というのは、何をしたいのか、お互いがそれぞれの手法を通じて分かりあうことができたからです。即興を重ねるうちに、絵・演劇・音楽という異なるジャンルが有機的に混ざり合うパフォーマンスのアイデアが生まれました。そして、絵と音楽が、空想の「まち」や「国」への旅に誘う『うつくしいまち』が生まれました。

――『うつくしいまち』というすてきな題には、どんな意味が込められているのでしょう。

このタイトルが生まれたのは偶然でして。いろいろな「まち」や「風景」を探していたら、その旅が「うつくしいまち（複数形）」というパフォーマンスになっていったのです。「うつくしい」という言葉は、美的な美しさだけでなく、そういった感覚や記憶を私たちに残してくれるものを意味しています。

――作品は、公演のその場で創るのですね。ライブ・パフォーマンスの醍醐味は？

これまでに城崎と水戸で公演していますので、作品の構成や内容について決まっている部分もありますが、それらが全く変わらないわけではありません。なぜなら、誠さん、くみこさんと長いこと会っておらず、その間、私たちはたくさんの新しい経験をしてなにかしら変化しており、それが自然と作品に反映されるはずだからです。公演はナマモノです。血の通った人間が集まって生まれるものですから、絶えず進化しています。私たちアーティストは、公演を通して、新しいストーリーを語りたいと思っています。

――公演に向けて埼玉県に1週間滞在し、そのインスピレーションをもとに作品を創るとのことですが、現段階で埼玉県について抱いているイメージはありますか。

彩の国さいたま芸術劇場には下見で一度うかがいましたが、劇場・施設に圧倒されました。そのとき車で秩父や富士見にも足を伸ばしたのですが、埼玉県はとても広いですね！ 今度の滞在ではどんなところに行けるか、そこでの体験がどんな風に私たちの公演に反映されるか、お楽しみに！

子どもと“大きな子ども”に 会えることを楽しみに

――期間中にワークショップも開催されます。ワークショップを通して子どもたちに何を伝えたいですか？

子どもたちとのワークショップの時間は、私にとって非常に重要な位置を占めています。子どもたちに何かを教えるつもりはありません。遊びのような体験に巻き込むんです。そうして刺激を与え、凝り固まった思考から解き放ち、想像力を自由に羽ばたかせるのです。演劇や動作、遊びを使えば、絵は描けますよ。嘘だと思うかもしれませんが、本当です。ぜひ試しに来てください！

――ところで、モレッティさんは子どものころから美術は身近でしたか？ また、影響を受けた人は？

幼い頃は、残念ながら芸術や音楽を嗜むような環境ではありませんでした。小さな農村のようなところに住んでいたので、そういった刺激を受けることは皆無に等しかったんです。でも、大都市で勉強する機会を得て、音楽や演劇にとても惹かれました。コンテンポラリーアートにも興味を持ちまして、特に影響を受けたのがアレクサンダー・カルダー*です。

――最後にメッセージをお願いします。

私たちの作品を見てくれる子どもたち、そして彼らを見守る家族のために創作することは大きな喜びです。子どもたちの視線はとてもフレッシュで、彼らのその瞬間を生きる好奇心、ある種の誠実さが、私にとって「もっと面白いものを見せてやろう！」というモチベーションになっています。子どもたちのための作品を長年作り続けていますが――そもそも子どもたちのための作品しか作っていませんが――私の作品自体は、遊び心があって、好奇心旺盛、そして、その瞬間に身を任せることを愛する“大きな子どもたち”のためでもあります。そんな皆さんと劇場でお会いできるのを楽しみにしています。

＊“動く彫刻”としてモビールを生み出したアメリカの美術家。1898年生～1976年没。姓は「コールダー」と表記されることも。

チケット販売中

テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ
『うつくしいまち』

8.4（日）14:00
彩の国さいたま芸術劇場 小ホール

［出演］テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ
［共同演出・美術］ダリオ・モレッティ
［共同演出・音楽］野村 誠、やぶくみこ

チケット（税込）全席指定
大人 2,500円　子ども（3歳以上12歳以下）1,000円

関連企画

びじゅつワークショップ　定員間近
「みんなのまちを描いてみよう！」
【講師】ダリオ・モレッティ（演出家・美術家）
【日程】7月30日（火）11:00～12:00 予定
【場所】宮代町コミュニティセンター進修館 2F ロビー
【対象】4歳～6歳

おんがくワークショップ
「やぶさんとリズムで遊ぼう！」
【講師】やぶくみこ（音楽家）
【日程】7月31日（水）11:00～12:00 予定
【場所】彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場2
【持ちもの】好きな楽器、または好きな音のなるもの
【対象】小学1～3年生

「野村さんとメロディーをつくろう！」
【講師】野村 誠（音楽家）
【日程】7月31日（水）14:00～15:00 予定
【場所】彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場2
【持ちもの】鍵盤ハーモニカ
【対象】小学3～6年生

※定員各15名（先着・要申込）。参加費各500円。
申込方法は財団ホームページをご覧ください。

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン

シュテファン・ドール

ホルン奏者

Interview

リーダーが「1人」でなく「5人」いる、それがアンサンブル・ウィーン＝ベルリン

ウィーンとベルリンの名門オーケストラの首席奏者たちによる
世界最高峰の木管五重奏団、アンサンブル・ウィーン＝ベルリン。
中高生の吹奏楽部員も熱烈な音楽マニアも、音楽を愛する人すべてを
幸せにし、唸らせる、圧巻の演奏の極意とは？
アンサンブル・ウィーン＝ベルリンのメンバー、
ホルン奏者のシュテファン・ドールに話をうかがった。

取材・文◉飯尾洋一（音楽ライター）　Photo◉青柳 聡
協力◉株式会社ヒラサ・オフィス

世界のトップオーケストラの首席奏者たちが集まった極上の木管五重奏団、アンサンブル・ウィーン＝ベルリンが、2年ぶりに彩の国さいたま芸術劇場に帰ってくる。

アンサンブル・ウィーン＝ベルリンは、ベルリン・フィルのシュテファン・ドール（ホルン）、ジョナサン・ケリー（オーボエ）、アンドレアス・オッテンザマー（クラリネット）、ウィーン・フィルのカール＝ハインツ・シュッツ（フルート）、ウィーン交響楽団のリヒャルト・ガラー（ファゴット）の5人のメンバーが集う夢のような木管五重奏団だ。今回はモーツァルト、タファネル、イベールの作品で妙技を披露する。

5人の考え方が違うのは幸いなこと

――1983年にウィーン・フィルとベルリン・フィルのメンバーで結成されたアンサンブル・ウィーン＝ベルリンは、2013年に最後の創立メンバーであるシェレンベルガーが引退して若返りを果たしました。チームワークにはどんな変化がありましたか。

チームワークについては、新しいメンバーを迎えても変化はありません。しかし、新しいメンバーが加わることで、リハーサルや本番に新しい風が吹きます。新しいメンバーが、エネルギーと新たな視点をもたらしてくれるのです。ご承知のように、アンサンブルは人と人とのつながりでこそ成り立つものですから、新しいメンバーを迎えるのは新しい考え方やアプローチに出会えるすてきな瞬間ですね。

――現在のアンサンブル・ウィーン＝ベルリンにリーダーのような存在はいるのでしょうか。

このアンサンブルには「5人のリーダー」がいるんです。5人それぞれが対等にものを言って、お互いに刺激しあい、それぞれの違いを受け入れあうのです。私たちのこのアプローチは、ひとりのリーダーがいるアンサンブルより良いものだと信じています。

――アンサンブル・ウィーン＝ベルリンのリハーサルはどんなふうに進められるのでしょう。和気あいあいとした雰囲気なのでしょうか。ときには意見の対立も起きるのでしょうか。

とてもなごやかな雰囲気ですよ。ですが、議論をし、新しいアプローチや考えを試すことはアンサンブルには必須ですよね。“幸いなことに”私たちは同一の考え方を持っていません。ですので、最良の音楽に身をささげるべく、いっしょに取り組み、議論をして、解決していけるのです。

――所属するオーケストラの異なるメンバーが集まっていることで、メンバー間で「文化の違い」を感じることはありますか。

自分はどこそこのオーケストラのメンバーだからこういう音楽をします、というようなメンバーはいません。私たちは、ただアンサンブルでいたい、というだけです。それぞれのメンバーがおのおのの音楽的経験をひとつの音楽にまとめてゆく、それだけです。そこで、私は異なるアイデアをひとつにまとめあげる手助けをするのです。

ともに音楽を奏でることは ともに音楽の旅を楽しむこと

――今回の公演プログラムではモーツァルト、タファネル、イベールといった多彩な作曲家たちの作品がとりあげられます。どのように演奏曲目を決めたのでしょうか。

木管五重奏のレパートリーは、オリジナル曲と編曲作品とのミックスです。私はプログラムを組む際に、オリジナル曲と編曲のバランスを取ること、そして、お客様に存分に楽しんでいただけることを第一に考えています。

――モーツァルトの五重奏曲ハ短調はレヒトマンによる編曲だそうですね。どういった編曲なのでしょうか。

これはもともと木管八重奏だった曲をモーツァルト自身が弦楽四重奏に編曲し、その曲を木管アンサンブル用にしつらえたものです。編曲の見事さに加え、モーツァルトの音楽がどれだけすばらしいかを感じていただけることでしょう。初めてこの曲を演奏したときに、八重奏版よりもこの版のほうがホルンのパートが芳醇でとても楽しんだことを思い出しますよ。

――日本の中学校や高校では、吹奏楽の活動がとても盛んです。彼らのために、楽器上達の秘訣や練習法についてのアドバイスをなにかいただけますか。

アンサンブル・ウィーン＝ベルリンのコンサートに足を運んでくださるお客様には、才能ある若い学生やアマチュア音楽家の方々がたくさんいらっしゃることはよく存じています。十分な練習時間を確保することに苦労されている方も多いことでしょう。しかし、音楽に対する情熱はいつもみなさんの心の中にあるはず。音楽を楽しむということは、正確に音楽を奏でるということではありません。ともに音楽を奏でるのは、ともに音楽の旅を楽しむこと。常に情熱の火を消さず、音楽を愛していることがもっとも大切なことです！

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン
Ensemble Wien-Berlin

1983年にウィーン・フィルとベルリン・フィルの首席奏者によって設立された木管五重奏。以来、メンバーを徐々に変更しながら活動を続け、2013年の30周年を機に完全に若返り、新たな船出を果たす。現メンバーは、カール＝ハインツ・シュッツ（Fl. ウィーン・フィル）、ジョナサン・ケリー（Ob. ベルリン・フィル）、アンドレアス・オッテンザマー（Cl. ベルリン・フィル）、リヒャルト・ガラー（Fg. ウィーン響）、シュテファン・ドール（Hr. ベルリン・フィル）。

シュテファン・ドール
（ホルン）
Stefan Dohr

ドイツ生まれ。1985年フランクフルト・オペラ管弦楽団の首席ホルン奏者に就任、2年後にはバイロイト音楽祭管弦楽団、その後ニース・フィルハーモニック管弦楽団、ベルリン放送交響楽団にて首席を歴任。ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団には1993年より首席ホルン奏者として就任。また、ソリストとして、さらにベルリン・フィル団員との数多くのアンサンブルのメンバーとして活動するほか、ハンス・アイスラー音楽大学およびカラヤン・アカデミーで指導も行っている。

チケット販売中

アンサンブル・ウィーン＝ベルリン

9.28（土）15:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

［出演］カール＝ハインツ・シュッツ（フルート）
ジョナサン・ケリー（オーボエ）
アンドレアス・オッテンザマー（クラリネット）
リヒャルト・ガラー（ファゴット）
シュテファン・ドール（ホルン）
［曲目］モーツァルト：歌劇《コジ・ファン・トゥッテ》より
タファネル：木管五重奏曲 ト短調
イベール：木管五重奏のための3つの小品
モーツァルト（レヒトマン編曲）：
五重奏曲 ハ短調（セレナード第12番 KV 388と五重奏曲 KV 406より）

チケット（税込）全席指定　一般 5,000円　U-25* 2,500円
メンバーズ 一般 4,500円

＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”Vol.2「フーガ」の苦しみと喜び

彩の国さいたま芸術劇場オルガン事業アドヴァイザー大塚直哉が、ポジティフ・オルガンの魅力に迫るレクチャー・コンサート。昨年は《平均律クラヴィーア曲集第1巻》第1番〜第10番をポジティフ・オルガンとチェンバロで聴き比べ、大好評を博した。今年は続きの第11番〜第17番の聴き比べに加え、バロック・ヴァイオリニスト若松夏美をゲストに迎え、ヴァイオリンのフーガも楽しむ。

文◉榊原律子

Photo◎加藤英弘

“音楽の旧約聖書”ともいわれるバッハの《平均律クラヴィーア曲集第1巻》。普段チェンバロやピアノで聴きなれている作品だが、同じ鍵盤楽器でも、音が持続するオルガンで聴いたら……？ そんな好奇心のツボをぐいぐい押してくれるのが「大塚直哉レクチャー・コンサート」だ。

前奏曲とフーガからなる全24曲のうち、昨年、第1番から第10番までをチェンバロとポジティフ・オルガンとで聴き比べたところ、ポジティフ・オルガンで聴く《平均律》はチェンバロと異なる音像が立ち上り、《平均律》はこんな作品だったか！ と耳からウロコが落ちる音楽体験に。また、この曲はチェンバロの方が、あの曲はポジティフ・オルガンの方がいいかも、と曲ごとの個性の発見も楽しんだ。演奏だけでなく、1曲ごとに大塚直哉のトーク付き。とてつもない充実度のレクチャー・コンサートで、お客様から大好評をいただいた。

そして今年7月は第2弾『「フーガ」の苦しみと喜び』として、続きの第11番から第17番までの7曲をポジティフ・オルガンとチェンバロで聴き比べる。さらに、バロック・ヴァイオリニストの若松夏美をゲストに迎え、ヴァイオリンで演奏するフーガを味わう。バッハの極意ともいえるフーガ。緻密で美しい音の綾を奏でる「苦しみ」と「喜び」とは？ 日本を代表する古楽奏者2人の本音が聞けるかもしれないレクチャー・コンサートをお楽しみに！

チケット販売中

大塚直哉レクチャー・コンサート
オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”Vol.2「フーガ」の苦しみと喜び

7.7（日）14:00　彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール
［出演］大塚直哉（ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話）
若松夏美（バロック・ヴァイオリン）
［曲目］J. S. バッハ：《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第11番から第17番
《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番》より第1・2楽章
チケット（税込）全席指定 一般・メンバーズ 2,000円

チケット販売中　大塚直哉レクチャー・コンサート2公演セット券 詳細はP.22

バロック・ヴァイオリン
若松夏美
よりメッセージ

ヴァイオリンのために書かれた見事なフーガに感動！

フーガは「苦しくてはまる」。難しいけれど、練習していると本当に楽しいですよ。フーガは昔から好きで、ヴァイオリンだけでなく、大学の副科ピアノでもフーガを弾くのも楽しかったですね。

今回、バッハの《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第２番》から第１・２楽章を演奏します。《ヴァイオリンとチェンバロのためのソナタ》でも第２楽章は大抵フーガですが、「苦しみ」という点では無伴奏曲に勝るものはありません（笑）。また第２番はチェンバロ用の編曲版もあり、鍵盤楽器のフーガと比較できると思います。

第２番第２楽章は３声のフーガ。主題が３つの声部に順に始まり、対旋律の半音階も聞こえてきます。ヴァイオリン１本のためにこのように見事なフーガが書かれたことは感動的です。

このフーガにはヴィオラ・ダ・ガンバの二重奏が呼びかわしているような雰囲気のところもあるんですよ。そんな雰囲気が聞こえるように、また、皆様にバッハの素晴らしさを感じていただけるように弾きたいと思っています。

MUSIC

埼玉会館ランチタイム・コンサート第38回
東京交響楽団メンバーによる金管五重奏
3.13（水）埼玉会館 大ホール

金管楽器の多彩な表現を楽しんだ、東京交響楽団メンバーによる金管五重奏の演奏会。トランペットが呼び交わす華麗な《トランペット・ヴォランタリー》で始まり、《小フーガ》ではオルガンに負けない荘厳な響きを堪能。《勧善懲悪！ちょんまげパラダイス》は「暴れん坊将軍」「水戸黄門」など有名時代劇テーマ曲のメドレーで、客席から思わず笑いも。《ミュージカル・メドレー》では「キャッツ」のホルン・ソロにうっとりし、「天使にラブ・ソングを」ではテューバを叩いてゴスペル調を表現。アンコールは伝説のロックバンド、クイーンのメドレー。トロンボーン・ソロの《ウィー・ウィル・ロック・ユー》では客席も手・足拍子で演奏に“参加”した。

Photo◎加藤英弘

MUSIC

バッハ・コレギウム・ジャパン
J. S. バッハ《マタイ受難曲》
4.13（土）彩の国さいたま芸術劇場 音楽ホール

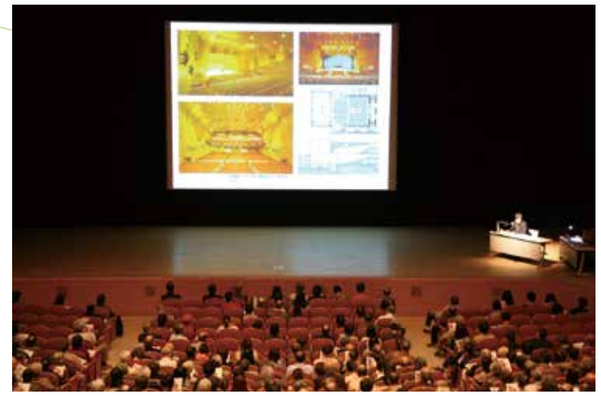
バッハ・コレギウム・ジャパン（BCJ）による今年の公演は《マタイ受難曲》。彩の国で10回目の同曲演奏、また、20年ぶりの録音を当劇場で進めながらの、BCJにとっておそらくひとつの節目となった公演だったに違いない。大きなコンティヌオ・オルガンを新調して挑んだ今回、オルガンの存在感が圧倒的で、その豊かな響きに寄り添う音づくりで抒情的な演奏となった。櫻田亮のエヴァンゲリストは出来事をまっすぐに捉え伝えるような語り口で、イムラーのイエスは崇高さに満ち、ソプラノのサンプソンのうるわしい声が祈りの思いを呼び起こす。ヴィオラ・ダ・ガンバ福沢宏をはじめ器楽ソロは情感豊かで、BCJならではの圧巻の演奏に心打たれた。

Photo◎横田敦史

EVENT

前川國男建築セミナー 第6回
前川建築のホールとその響きを探る
4.29（月・祝）埼玉会館 大ホール

日本モダニズム建築に功績を残した前川國男。この近代建築の巨匠が設計した埼玉会館の建築としての特徴に焦点を当て、埼玉会館の魅力を再発見していく建築セミナーが開催された。今回は前川と実際に仕事をしてきた橋本功を講師に迎え、埼玉会館を含む、全国にある前川設計の音楽ホールを紹介。後半は、ゲストのマリンバ奏者・塚越慎子が、舞台上に備わった反射板の効果や演奏位置による音響の違いを実演検証した。オペラに心惹かれて音楽を愛した前川の設計意図に頷きながら響きを体感した来場者からは感嘆の声がもれる場面も。最後は塚越のミニコンサートでフィナーレ。大ホールの優れた音響を肌で感じるセミナーとなった。



EVENT CALENDAR イベントカレンダー

2019.6.1 >>> 8.15

お子様から楽しんでいただける公演です。
光の庭プロムナード・コンサートには年齢制限はありません。

大ホール 小ホール 音楽ホール 映像ホール 情報プラザ ＝彩の国さいたま芸術劇場　埼玉会館 ＝埼玉会館

PLAY

		開演時間
6月 1 土		
2 日		
3 月	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）	
4 火	休館日（埼玉会館）	
5 水	休館日（埼玉会館）	
6 木		
7 金		
8 土		
9 日		
10 月	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）	
11 火		
12 水		
13 木		
14 金		
15 土		
16 日		
17 月	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）	
18 火	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）	
19 水		
20 木		
21 金		
22 土		
23 日		
24 月		
25 火		
26 水		
27 木		
28 金	7 『めにみえない みみにしたい』関連企画「地図のワークショップ」 小ホール 13:00～16:00 ※詳細は財団HP	
29 土		
30 日		
7月 1 月		
2 火		
3 水		
4 木		
5 金	18 2019年度公文協東コース 松竹大歌舞伎 松本幸四郎改め二代目松本白　鶴襲名披露 市川染五郎改め十代目松本幸四郎襲名披露 熊谷文化創造館さくらめいと太陽のホール 13:30 詳細はP.21	
6 土		
7 日		
8 月		
9 火		
10 水		
11 木		
12 金		
13 土	13 『めにみえない みみにしたい』 小ホール	15:00
14 日		11:30/15:00
15 月・祝	15 4歳以上推奨 詳細はP.4-5	11:30/15:00
16 火		
17 水		
18 木	18 さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3 『朝のライラック』［ヨルダン／パレスチナ］ 彩の国さいたま芸術劇場 NINAGAWA STUDIO（大稽古場） 詳細はP.6-7	19:00
19 金		14:00
20 土		14:00
21 日		14:00
22 月		休 演
23 火		14:00
24 水		14:00
25 木		14:00
26 金		19:00
27 土		14:00
28 日	28	14:00
29 月		
30 火		
31 水		
8月 1 木		
2 金	27 彩の国さいたま寄席 四季彩亭 林家正蔵と若手落語家競演会 小ホール 14:00 詳細はP.21	
3 土		
4 日		
5 月	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）	
6 火		
7 水		
8 木		
9 金		
10 土		
11 日		
12 月・休		
13 火		
14 水	休館日（埼玉会館）	
15 木		

DANCE

		開演時間
6月 1 土	1 マーク・モリス・ダンス・グループによるパーキンソン病患者のためのダンス・プログラム〈指導者向けワークショップ〉 彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場1 ※詳細は財団HP	9:30～18:30
2 日	2	9:30～18:30
3 月		
4 火		
5 水		
6 木		
7 金		
8 土		
9 日	9 パーキンソン病患者のためのダンス・プログラム〈患者さん向け体験クラス〉 彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場1 ※詳細は財団HP	11:00～12:30
10 月		
11 火		
12 水		
13 木		
14 金		
15 土		
16 日		
17 月		
18 火		
19 水		
20 木		
21 金		
22 土		
23 日		
24 月		
25 火		
26 水		
27 木		
28 金	28 ディミトリス・パパイオアヌー『THE GREAT TAMER』 大ホール 詳細はP.10-11	19:00
29 土		15:00
30 日	30	15:00
7月 1 月		
2 火		
3 水		
4 木		
5 金		
6 土		
7 日		
8 月	休館日（彩の国さいたま芸術劇場）	
9 火		
10 水		
11 木		
12 金		
13 土		
14 日		
15 月・祝		
16 火		
17 水	休館日（埼玉会館）	
18 木		
19 金		
20 土		
21 日		
22 月		
23 火		
24 水		
25 木		
26 金		
27 土		
28 日		
29 月		
30 火	テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ『うつくしいまち』関連企画 7月30日（火） びじゅつワークショップ「みんなのまちを描いてみよう！」 宮代町コミュニティセンター進修館 2Fロビー 11:00～12:00予定　※要申込	
31 水	7月31日（水） おんがくワークショップ「やぶさんとリズムで遊ぼう！」 彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場2 11:00～12:00予定　※要申込 「野村さんとメロディーをつくろう！」 彩の国さいたま芸術劇場 中稽古場2 14:00～15:00予定　※要申込 詳細はP.14-15	
8月 1 木		
2 金		
3 土		
4 日		
5 月		
6 火		
7 水		
8 木		
9 金		
10 土		
11 日		
12 月・休		
13 火		
14 水		
15 木		

MUSIC

6月 1 土	
2 日	
3 月	
4 火	
5 水	
6 木	
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	埼玉会館ランチタイム・コンサート第39回 イリーナ・メジューエワ（ピアノ）
11 火	埼玉会館 大ホール
12 水	14 12:10（終了予定13:00） 詳細はP.21
13 木	16 ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール！Vol.8 萩原麻未 ピアノ・リサイタル
14 金	音楽ホール 15:00 詳細はP.21
15 土	
16 日	
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	
21 金	
22 土	22 光の庭プロムナード・コンサート 第108回 令和バロックことはじめ ～音と音との語らい～
23 日	情報プラザ 14:00
24 月	[出演] 秋本奈美（オルガン） 福井彩花（ヴァイオリン）
25 火	[曲目] J. S. バッハ（ウィルヘルミ編曲）：G線上のアリア J. S. バッハ：ヴァイオリン・ソナタ 第4番 ハ短調 BWV 1017 J. A. ラインケン：フーガ ト短調 ほか
26 水	※入場無料
27 木	
28 金	
29 土	
30 日	
7月 1 月	
2 火	
3 水	
4 木	
5 金	
6 土	
7 日	7 大塚直哉レクチャー・コンサート オルガンとチェンバロで聴き比べ バッハの"平均律" Vol.2「フーガ」の苦しみと喜び
8 月	音楽ホール 14:00
9 火	詳細はP.18
10 水	
11 木	
12 金	
13 土	
14 日	
15 月・祝	
16 火	
17 水	27 光の庭プロムナード・コンサート 第109回 夏休みスペシャル ～海をわたる天空の響き～
18 木	情報プラザ 14:00
19 金	[出演] 早川幸子（オルガン）、田島和枝（笙・竽） [曲目] ヘンデル：調子のよい鍛冶屋 井上武士：童謡〈海〉 ほか
20 土	※入場無料
21 日	
22 月	
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	「ドゥオール デュオセミナー」関連企画 28 ピアノデュオ はじめのいっぽ ～ピアノデュオの楽しさを体験！～
28 日	彩の国さいたま芸術劇場 大練習室
29 月	30 31 14:00～15:30 詳細はP.23　5歳以上
30 火	
31 水	
8月 1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	4 テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ『うつくしいまち』 3歳以上
6 火	小ホール 14:00
7 水	詳細はP.14-15
8 木	
9 金	
10 土	
11 日	
12 月・休	
13 火	
14 水	
15 木	

CINEMA

6月 1 土	
2 日	
3 月	
4 火	
5 水	
6 木	
7 金	
8 土	
9 日	
10 月	
11 火	
12 水	
13 木	
14 金	
15 土	
16 日	
17 月	
18 火	
19 水	
20 木	
21 金	
22 土	
23 日	
24 月	『家へ帰ろう』 映像ホール
25 火	26 10:30 / 14:30
26 水	10:30 / 14:30
27 木	10:30 / 14:30
28 金	10:30 / 14:30 / 18:00
29 土	30 10:30 / 14:30
30 日	詳細はP.21
7月 1 月	
2 火	『初恋のきた道』 埼玉会館 小ホール
3 水	3 4 10:30 / 14:30 / 18:30
4 木	10:30 / 14:30 / 18:30
5 金	詳細はP.21
6 土	
7 日	
8 月	
9 火	
10 水	
11 木	
12 金	
13 土	
14 日	
15 月・祝	『教誨師』 映像ホール
16 火	17 10:30 / 14:30
17 水	10:30 / 14:30
18 木	10:30 / 14:30
19 金	10:30 / 14:30 / 18:00
20 土	21 10:30 / 14:30
21 日	詳細はP.21
22 月	
23 火	
24 水	
25 木	
26 金	
27 土	
28 日	
29 月	
30 火	
31 水	
8月 1 木	
2 金	
3 土	
4 日	
5 月	『クロワッサンで朝食を』 埼玉会館 小ホール
6 火	7 8 10:30 / 14:30 / 18:30
7 水	10:30 / 14:30 / 18:30
8 木	詳細はP.21
9 金	
10 土	
11 日	
12 月・休	
13 火	
14 水	
15 木	

CINEMA

彩の国シネマスタジオ

【全席自由・各回入替制・整理券制】

大人1,000円 学生500円［入場時に学生証をご提示ください］
※料金は当日現金支払いのみ

6.26（水）～30（日） 映像ホール

『家へ帰ろう』
（2017年／スペイン・アルゼンチン／93分）
［監督・脚本］パブロ・ソラルス
［出演］ミゲル・アンヘル・ソラ、アンヘラ・モリーナ ほか
※6月30日（日）14:30回終了後、芝 健介氏（東京女子大学名誉教授 ドイツ近現代史）によるアフタートークあり。

©2016 HERNÁNDEZ y FERNÁNDEZ Producciones cinematográficas S.L., TORNASOL FILMS, S.A RESCATE PRODUCCIONES A.I.E., ZAMPA AUDIOVISUAL, S.L., HADDOCK FILMS, PATAGONIK FILM GROUP S.A.

7.3（水）、4（木） 埼玉会館 小ホール

『初恋のきた道』（1999年／中国／89分）
［監督］チャン・イーモウ
［出演］チャン・ツィイー、スン・ホンレイ ほか

©2000 COLUMBIA PICTURES FILM PRODUCTION ASIA LTD. ALL RIGHTS RESERVED.

7.17（水）～21（日） 映像ホール

『教誨師』（2018年／日本／114分）
［監督・脚本］佐向 大
［出演］大杉 漣、玉置玲央、鳥丸せつこ、五頭岳夫、小川 登、古舘寛治、光石 研 ほか
※7月21日（日）14:30回終了後、佐向 大（本作監督・脚本）によるアフタートークあり。

© 『教誨師』members

8.7（水）、8（木） 埼玉会館 小ホール

『クロワッサンで朝食を』
（2012年／フランス・エストニア・ベルギー／95分）
［監督・脚本］イルマル・ラーグ
［出演］ジャンヌ・モロー、ライネ・マギ ほか

©TS Productions – Amrion Oü – La Parti Production – 2012

TICKETS チケット

お子様から楽しんでいただける公演です。

大ホール 小ホール 音楽ホール ＝彩の国さいたま芸術劇場　埼玉会館 ＝埼玉会館
＊U-25チケットは公演時、25歳以下の方が対象です。入場時に身分証明書をご提示ください。

PLAY

販売中

『めにみえない みみにしたい』 4歳以上推奨
詳細はP.4-5

販売中

さいたまネクスト・シアター 世界最前線の演劇3
『朝のライラック』［ヨルダン／パレスチナ］
詳細はP.6-7

予定枚数終了

2019年度公文協東コース
松竹大歌舞伎
松本幸四郎改め二代目松本白　鶴襲名披露
市川染五郎改め十代目松本幸四郎襲名披露
7.18（木） 13:30 ※1回公演
熊谷文化創造館さくらめいと 太陽のホール
［演目］襲名披露『口上』、双蝶々曲輪日記『引窓』、色彩間苅豆『かさね』
［出演］松本白鸚、松本幸四郎、市川猿之助、市川高麗蔵、大谷廣太郎、松本錦吾 ほか
チケット（税込） 一般 S席8,000円 A席5,500円 B席4,000円
U-25*（A席対象）1,450円
メンバーズ S席7,200円 A席5,000円

販売中

彩の国さいたま寄席　四季彩亭
林家正蔵と若手落語家競演会
7.27（土） 14:00 小ホール
［出演］林家正蔵（ゲスト）、柳家三語楼、柳家小傳次、林家まめ平
チケット（税込） 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引（65歳以上・障がい者）2,000円
メンバーズ 2,700円

発売日　一般 7.27（土）　メンバーズ 7.20（土）

彩の国さいたま寄席　四季彩亭
林家たい平とおすすめ若手特選会
10.26（土） 15:00 小ホール
［出演］林家たい平（ゲスト） ほか
チケット（税込） 全席指定 一般3,000円
ゆうゆう割引（65歳以上・障がい者）2,000円
メンバーズ 2,700円

DANCE

販売中

ディミトリス・パパイオアヌー
『THE GREAT TAMER』
詳細はP.10-11

MUSIC

販売中　※残席僅少

埼玉会館ランチタイム・コンサート第39回
イリーナ・メジューエワ（ピアノ）
6.14（金） 12:10（終了予定13:00）
埼玉会館 大ホール
［曲目］ショパン：幻想即興曲 嬰ハ短調 作品66（遺作）
英雄ポロネーズ 作品53
ドビュッシー：《ベルガマスク組曲》より〈月の光〉 ほか
チケット（税込） 全席指定 1,000円

販売中【3公演セット券】【アンコール！Vol.8 1回券】

発売日【Vol.37 1回券】一般 6.15（土） メンバーズ 6.8（土）

※3公演セット券の販売は6/15（土）まで

ピアノ・エトワール・シリーズ
アンコール！Vol.8 **萩原麻未**
Vol.37 **ルーカス&アルトゥール・ユッセン**
Vol.38 **ベアトリーチェ・ラナ**
音楽ホール
【アンコール！Vol.8 萩原麻未】
6.16（日） 15:00
［曲目］
ショパン：華麗なる大円舞曲 変ホ長調 作品18
ワルツ第6番 変ニ長調 作品64-1「小犬」
ワルツ第9番 変イ長調 作品69-1「別れ」 ほか
ピアソラ：アディオス・ノニーノ
ヒナステラ：アルゼンチン舞曲集 作品2
モンポウ：《歌と踊り》より
ラヴェル：ラ・ヴァルス

【Vol.37 ルーカス&アルトゥール・ユッセン】
11.17（日） 15:00
［曲目］
モーツァルト：2台のピアノのためのソナタ ニ長調 KV 448（375a）
ファジル・サイ：夜［4手］
ラヴェル：マ・メール・ロア（4手のための組曲）
ラ・ヴァルス［2台ピアノ］ ほか

【Vol.38 ベアトリーチェ・ラナ】
2020年3.8（日） 15:00
［曲目］J. S. バッハ：イタリア協奏曲 BWV 971
シューマン：ピアノ・ソナタ第3番 ヘ短調 作品14
アルベニス：組曲《イベリア》第3集
ストラヴィンスキー：「ペトルーシュカ」からの3楽章
※78号において Vol.38公演日の記載に誤りがございました。
お詫びして訂正いたします。

チケット（税込）
【3公演セット券】一般・メンバーズ 正面席 9,000円
バルコニー席 7,500円／U-25*（バルコニー席対象）3,000円
【各回】一般 正面席 3,500円 メンバーズ 正面席 3,200円
バルコニー席 2,500円／U-25*（バルコニー席対象）1,000円

※Vol.38 発売日 一般10月5日（土）　メンバーズ9月28日（土）

次頁へ続く

MUSIC

販売中【2公演セット券】【Vol.2・1回券】

発売日【Vol.3・1回券】一般 7.6(土) メンバーズ 6.29(土)

大塚直哉レクチャー・コンサート

オルガンとチェンバロで聴き比べるバッハの“平均律”

音楽ホール

【Vol.2】「フーガ」の苦しみと喜び 詳細はP.18

7.7(日)14:00

[出演] 大塚直哉(ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話)、若松夏美(バロック・ヴァイオリン)

[曲目] J. S. バッハ:《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第11番から第17番、《無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番》より第1・2楽章

【Vol.3】“平均律 wohltemperiert”の謎

2020年 **2.2**(日) 14:00

[出演] 大塚直哉(ポジティフ・オルガン、チェンバロ、お話)

[曲目] J. S. バッハ:《平均律クラヴィーア曲集第1巻》より第18番から第24番

チケット(税込)

【2公演セット券】全席指定 一般・メンバーズ 3,600円

【Vols.2-3】各回 全席指定 一般・メンバーズ 2,000円

販売中

テアトロ・ムジーク・インプロヴィーゾ

『うつくしいまち』 3歳以上

詳細はP.14-15

販売中

アンサンブル・ウィーン=ベルリン

詳細はP.16-17

販売中

佐藤俊介とオランダ・バッハ協会管弦楽団

10.5(土) 14:00 音楽ホール

[出演] 佐藤俊介(ヴァイオリン/音楽監督)

オランダ・バッハ協会管弦楽団

アンネケ・ファンハーフテン/ビーテル・アフルティ(ヴァイオリン)、フェムケ・ハウジンガ(ヴィオラ)、ルシア・スヴァルツ(チェロ)、ヘン・ゴールドソーベル(コントラバス)、マルテン・ロート(フルート)、エマ・ブラック/ヨンチョン・シン(オーボエ)、ベニー・アガッシ(バスーン)、ディエゴ・アレス(チェンバロ)

[曲目] J. S. バッハ:管弦楽組曲第1番 ハ長調 BWV 1066

ピゼンデル:ダンスの性格の模倣

J. S. バッハ:ヴァイオリンとオーボエのための協奏曲 ハ短調 BWV 1060R

J. S. バッハ:ヴァイオリン協奏曲第2番 ホ長調 BWV 1042

ビュファルダン:《5声の協奏曲 ホ短調》より第2楽章

J. S. バッハ:ブランデンブルク協奏曲第5番 ニ長調 BWV 1050

チケット(税込) 一般 正面席6,000円 バルコニー席5,000円

U-25* 3,000円/メンバーズ 正面席5,400円

販売中

NHK交響楽団

下野竜也(指揮) 小山実稚恵(ピアノ)

11.2(土)16:00 埼玉会館 大ホール

[曲目] ヴェルディ:歌劇《運命の力》序曲

ラフマニノフ:ピアノ協奏曲 第2番 ハ短調 作品18

ムソルグスキー(ラヴェル編曲):組曲《展覧会の絵》

チケット(税込) 一般 S席6,500円 A席5,500円 B席4,500円

U-25*(B席対象) 2,000円

メンバーズ S席6,000円 A席5,100円 B席4,200円

※15:25〜15:40に指揮者・下野竜也氏によるプレコンサート・トークあり。

発売日 一般 6.2(日) メンバーズ 6.1(土)

埼玉会館ランチタイム・コンサート第40回

菅原 潤とN響メンバーによるアンサンブル

9.10(火) 12:10(終了予定13:00)

埼玉会館 大ホール

[出演] 菅原 潤(フルート/ピッコロ・フルート)

宇根京子/横溝耕一(ヴァイオリン)、

中村翔太郎(ヴィオラ)、三戸正秀(チェロ)

[曲目] モーツァルト:フルート四重奏曲第1番 ニ長調 KV 285

ダマレ:白つぐみ ほか

チケット(税込) 全席指定 1,000円

チケット購入方法

インターネット

SAF 埼玉県芸術文化振興財団 オンラインチケット

SAFオンラインチケットで、発売初日10:00から公演前日23:59まで受付いたします。

【PC・携帯共通】
https://www.ticket.ne.jp/saf/

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 【クレジットカード決済】または【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

電話予約

チケットセンター 0570-064-939

10:00〜19:00(彩の国さいたま芸術劇場休館日を除く)

※一部の携帯電話、PHS、IP電話からは受付できません。

メンバーズ 登録のご住所へ無料配送

一般 【コンビニ支払い】 ▶ コンビニ発券

※チケット代の他に、店頭発券手数料(チケット1枚につき120円)が必要です。

※コンビニ支払い後にチケット配送も承りますが、チケット代のほかに配送料(配送1件につき400円)が必要です。

窓口販売

彩の国さいたま芸術劇場・埼玉会館窓口(10:00〜19:00)**で直接購入いただけます。電話予約したチケットの引取もできます**(メンバーズは登録のご住所への配送となります)。

※休館日をお確かめの上、ご来場ください。

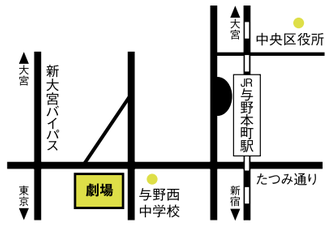
メンバーズ 【口座引落】

一般 【現金】または【クレジットカード決済】

▶ その場でチケットをお渡しします。

※手数料はかかりません。

彩の国さいたま芸術劇場



〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰 3-15-1

電話:048-858-5500(代) ファックス:048-858-5515

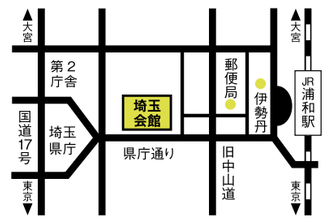
●電車でのアクセス

JR埼京線与野本町駅(西口)下車 徒歩7分

●バスでのアクセス

JR京浜東北線北浦和駅から西武バス大久保行き「彩の国さいたま芸術劇場入口」下車 徒歩2分

埼玉会館



〒330-8518 埼玉県さいたま市浦和区高砂 3-1-4

電話:048-829-2471(代) ファックス:048-829-2477

●電車でのアクセス

JR宇都宮線・高崎線・京浜東北線・湘南新宿ライン浦和駅(西口)下車 徒歩6分

※駐車台数に限りがありますので、ご来場の際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

【参加者募集】

「ドゥオール デュオセミナー」関連企画

ピアノデュオ はじめのいっぽ

〜ピアノデュオの楽しさを体験!〜

ステージにピアノ2台を向かい合わせに並べ、迫力あるサウンドを聴かせるピアノデュオ。皆さんは、その世界をのぞいてみたことがありますか? 埼玉県に在住し、国内外で活躍するピアノデュオ ドゥオールが、2016年から毎年開催しているセミナーの関連企画として、このたび「ピアノデュオ はじめのいっぽ」を開催いたします。「ピアノデュオって何だろう?」「ピアノを習っていて、お友達や兄弟とピアノデュオを弾いてみたい」「いつかデュオセミナーにチャレンジしてみたい」といった方々を対象に、魅力をとことんご紹介いたします。一流の講師の案内で、「ピアノデュオ」を間近に感じてみませんか?

【日時】7月28日(日) 14:00〜15:30

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大練習室

【講師】ピアノデュオ ドゥオール(藤井隆史&白水芳枝)

【定員】約40名

【対象・受講料】5才以上対象・500円

【申込締切】6月20日(木)

【申込方法】メール又は往復ハガキの往信面に

①郵便番号 ②住所 ③氏名(ふりがな) ④年齢 ⑤電話番号 ⑥FAX番号 ⑦メールアドレス ⑧デュオ体験希望の有無(有の場合は希望の課題曲)

◆課題曲◆ ブルグミュラー《25の練習曲》より任意の1曲/ショパン《小犬のワルツ》のいずれか

⑨受講希望者がお子さまの場合、付添受講希望者名をご記入の上、彩の国さいたま芸術劇場 事業部「ピアノデュオ はじめのいっぽ」係までお申込みください。

MAIL:music@saf.or.jp

郵送:〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1

※詳細は財団ホームページをご覧ください。

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場(音楽担当)

TEL.048-858-5506

【参加者募集】

彩の国さいたま芸術劇場「劇場体験ツアー」

劇場には客席からは見ることができない、たくさんの仕掛けがつまっています。ツアーでは、普段は入ることのできない舞台の裏側や、奈落と呼ばれる劇場の地下に皆さんをご案内します。スタッフが明かりや効果音を操作する様子をのぞいたり、出演者が準備をする楽屋を訪問したり、彩の国さいたま芸術劇場大ホールの舞台裏をくまなく冒険します。驚きいっぱいの劇場を親子で一緒に体験できる「劇場体験ツアー」で、新たな“劇場の魅力”を発見してみませんか?

【日時】8月22日(木)〜25日(日)

各日11:00/13:30/15:30(4日間計12回開催)

※開場は各回ともにツアー開始の20分前 ※ツアーは1時間程度を予定

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【対象】小学生とその保護者

※未就学児童のご参加はご遠慮いただいております(有料託児サービスあり)。

※親子で一緒にお楽しみいただくツアーです。高学年のお子さまの場合でも、できるだけ保護者の方が一緒にご参加ください。

【定員】各回30名(応募多数の場合は抽選)

【料金】300円(子ども・大人共通/保険料込み)

※当日受付にてお支払いください。

【申込方法】申込用紙(財団ホームページhttp://www.saf.or.jp/からダウンロード)に必要事項をご記入の上、FAXまたはご郵送いただくか、彩の国さいたま芸術劇場窓口にてお申込みください。当選者への参加証の発送をもって抽選結果の発表にかえさせていただきます(8月上旬予定)。

【申込期間】7月1日(月)〜24日(水)必着

【申込先】〒338-8506 埼玉県さいたま市中央区上峰3-15-1 彩の国さいたま芸術劇場「劇場体験ツアー」係

FAX.048-858-5515

【お問合わせ】彩の国さいたま芸術劇場

TEL.048-858-5500(休館日を除く10:00〜19:00)

Photo◎加藤英弘

青山メインランドファンタジースペシャル

ブロードウェイミュージカル

『ピーターパン』埼玉公演

蜷川幸雄作品の演出助手として活動し、演出家デビュー後、数々の演劇賞を受賞。今年1月ロンドンでミュージカル『VIOLET』の演出を手掛けるなど話題沸騰中の演出家・藤田俊太郎が自身3度目となる『ピーターパン』で彩の国さいたま芸術劇場に帰ってくる!ピーターパン役には2017年に10代目としてデビューした吉柳咲良(第41回ホリプロタレントスカウトキャラバングランプリ)、22代目フック船長役には新たにEXILE NESMITHが決定。益々パワーアップした『ピーターパン』をどうぞお見逃しなく!

販売中

【日程】**7.21**(日)〜**28**(日)

【会場】彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

【原作】ジェームズ・M・バリ【作詞】キャロリン・リー

【作曲】ムース・チャーラップ【翻訳/訳詞】青井陽治

【演出】藤田俊太郎

【出演】吉柳咲良、EXILE NESMITH、河西智美、宮澤佐江、入絵加奈子、久保田磨希 ほか

チケット(税込) 全席指定

昼公演:大人8,500円 子ども4,500円

夜公演:大人7,500円 子ども4,500円

※子ども=3〜12歳対象。※3歳未満のお子様は、保護者様のひざの上でご覧いただくことも可能ですが、お子様の頭が保護者様の肩の高さを超える場合は有料となります。お子様の年齢を確認できる身分証明書等のご提示をお願いする場合がございます。

【公演についてのお問合わせ】ホリプロチケットセンター

TEL.03-3490-4949

(平日10:00〜18:00/土曜10:00〜13:00)

	7.21 日	22 月	23 火	24 水	25 木	26 金	27 土	28 日
12:00(昼)	●			●			●	
13:00(昼)	●		休演	●		●	●	●
16:30(夜)	●			●			○	

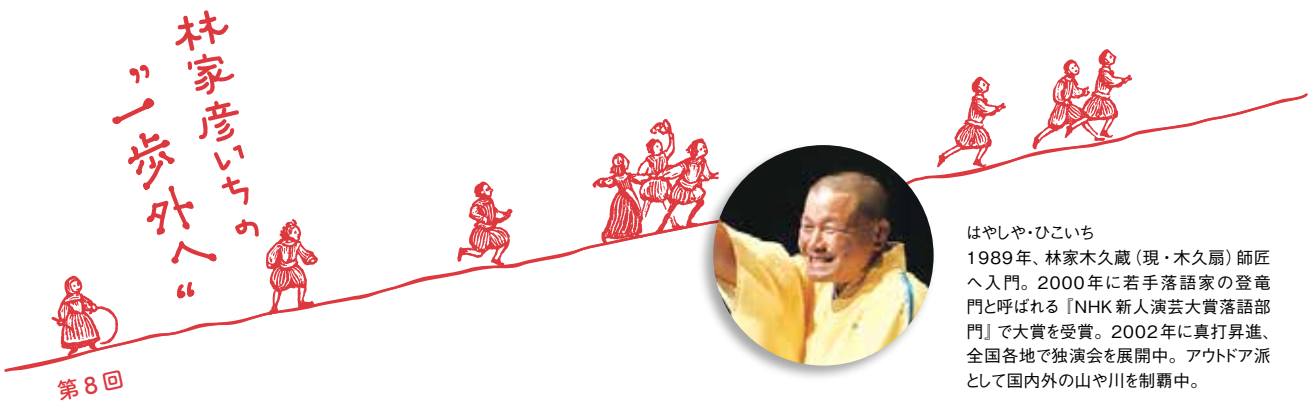
○7.27(夜)貸切公演

サポーター会員

(公財)埼玉県芸術文化振興財団は、演劇、ダンス、音楽を中心に、この劇場でしか見られない最高の作品を提供できるよう、作品づくりに努めています。こうした財団の活動にご理解、ご支援をいただいているのがサポーター会員の皆様方です。(2019.5.15現在/一部未掲載)

㈱与野フードセンター/㈱亀屋/㈱松本商会/㈲香山壽夫建築研究所/埼玉新聞社/埼玉りそな銀行/㈱パシフィックアートセンター/㈱アサヒコミュニケーションズ/FM NACK5/㈱タムロン/㈱十万石ふくさや/森平舞台機構㈱/東芝ライテック㈱/埼玉トヨタ自動車㈱/武蔵野銀行/浦和ロイヤルパインズホテル/アルピーノ村/国際照明㈱/埼玉スバル/㈱佐伯紙工所/㈱太陽商工/㈱しまむら/不動開発㈱/ビストロ やま/埼玉縣信用金庫/㈱栗原運輸/彩の国ＳＰグループ/㈲プラネッツ/㈱デサン/セントラル自動車技研㈱/丸美屋食品工業㈱/ポラスグループ/ひがし歯科/埼玉トヨペット㈱/公認会計士 宮原敏夫事務所/㈱埼玉交通/サイデン化学㈱/アイル・コーポレーション㈱/旭ビル管理㈱/ヤマハサウンドシステム㈱/㈱エヌテックサービス/㈱クリーン工房/㈱つばめタクシー/㈱サンワックス/㈱綜合舞台/(一財)さいたま住宅検査センター/㈱国大グループホールディングス/オーガスアリーナ㈱/イープラス/医㈱欅会 林整形外科/埼玉県整形外科医会/医㈱山粋会 山﨑整形外科/サンケイリビング新聞社/㈱三和広告社/ショッパー/㈱松尾楽器商会/日本大学芸術学部/㈱ホンダカーズ埼玉/㈲杉田電機/丸茂電機㈱/太平ビルサービス㈱さいたま支店/㈱片岡食品/㈱協栄/㈱ヨコハマタイヤジャパン/NTT東日本 埼玉事業部/㈱平和自動車/光陽オリエントジャパン㈱/さくらMusic Office/クワバラ・パンぷキン/東和アークス㈱/テレビ埼玉/日本ピストンリング㈱/金井大道具㈱/国立大学法人 埼玉大学/㈱七越製菓/ビーンズ与野本町/㈱コマーム/㈱原一探偵事務所/川口信用金庫/青木信用金庫/㈱和幸楽器/大栄不動産㈱/相川宗一/㈱ハイデイ日高/浦和実業学園中学・高等学校/三井隆司/大和証券㈱/AGS㈱/ウォータースタンド㈱/㈱ワイイーシーソリューションズ/白神久吉/医療法人青木会/むさし証券/三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱/㈱積田電業社/ボートピア岡部・栗橋/中央税務会計事務所/トヨタカローラ埼玉㈱/放送大学埼玉学習センター/GARO DAYHAPPY/㈱有村紙工/医たかだクリニック/SMBC日興証券㈱/㈱アステック/㈱ジェイコムさいたま/㈱ヤナセ/㈱博愛社/トヨタカローラ新埼玉㈱

お問合わせ (公財)埼玉県芸術文化振興財団 サポーター会員担当 TEL.048-858-5507



はやしや・ひこいち
1989年、林家木久蔵（現・木久扇）師匠へ入門。2000年に若手落語家の登竜門と呼ばれる『NHK新人演芸大賞落語部門』で大賞を受賞。2002年に真打昇進、全国各地で独演会を展開中。アウトドア派として国内外の山や川を制覇中。

平成から令和へ 芸歴30周年的な

文と写真◉林家彦いち

何を隠そう平成元年入門である。昭和天皇が崩御されたときは大学生だった。その年に大学を中退し弟子入り。その日は気合いを入れるためカツカレーを食べて師匠・林家木久扇の元へ向かったら、お昼時だったこともあり、蕎麦と親子丼をご馳走になった。おなかが破裂しそうだったことを覚えている。

入門を許され、元々不器用な僕はとにもかくにも芸は反復練習、対人関係は直球勝負。遊びはインドアではなく外遊び。どこか一歩外れつつ過ごした。古典落語も大好きなのだが、新作を創って過ごした。

月日は過ぎ、先日、平成も終わろうとしていた4月28日にある企画に乗ってみた。「彦いち芸歴30周年的な」というもの。メンバーは桃月庵白酒師、三遊亭兼好師、三遊亭白鳥師という同世代のノッている面々。よく一緒になる仲間たちとのリラックス落語会のハズだった。

イベントは盛り上がる方が良いので、シークレットで前座のころからよく知る柳家喬太郎師と立川談春師にも声をかけたところ、二つ返事で承諾。シャレで口上もやってみることに。緋毛氈の高座に、一同、黒紋付きでずらっと並び、幕が上がる。大入り満員のお客様から拍手、どよめき。真ん中で手をつき黙ってじっとしているなんて真打ちのお披露目以来。この格好、随分していなかったことに気が付く。

白酒師の司会で始まった。なんだかこのままでは立派なマジものになってしまう。「円楽党を代表して」と兼好師に振ると得意のおとぼけで和んでゆく。続いて「落語協会を代表して喬太郎師」「立川流を代表して談春師」となんだかシャレのつもりだったが、今となっては、皆本当に代表する一人になってんじゃん！ということにもこの時、初めて気が付いた。最後、「白鳥師も落語協会だけど」と思ったら司会の白酒師が、「それではプライベートの友人代表で……」と。盛り上がる客席。そうそう、こうでないと。そしてきちんと？ 白鳥師が破壊してくれた。うわぁなんだか嬉しいぞ。シャレのつもりがみんなの言葉にちょっと感動している自分がいた。

積み重ね、破壊、再生を繰り返した規格外の先輩や仲間は並ぶだけで絵になることも知った。型にはまらない面々が口上という型にいびつに収まろうとするのも面白かった。

いやぁ、参ったなぁ。平成がお開き。となると令和も「一歩外へ」出ちゃいますな。

twitter 演劇担当 @Play_SAF
舞踊担当 @Dance_SAF
音楽担当 @Music_SAF
Facebook 彩の国さいたま芸術劇場 @saitamaartstheater
埼玉会館 @saitamakaikan
Instagram 埼玉会館 @saitamakaikan

www.saf.or.jp

埼玉アーツシアター通信 第81号（6月－7月）
2019年6月1日発行（隔月1日発行）
発行人: 竹内文則
発行: 公益財団法人埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1 TEL.048-858-5500